



～ 夢ひとすじに～
宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 26 年度 第 6 号
平成 26 年 9 月 1 日 (月) 発行
さいたま市立宮原中学校
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

努力のつぼ(壺)

校長 やました せいじ
山下 誠二

夏休みも終わり、いよいよ2学期が始まりました。長い休みの間、生徒たちは様々な経験をし、見聞も広がったことと思います。その経験等が2学期からの生活に役立ち、自信となって、一人ひとりの表情や行動に表れてくることを期待しています。夏休み中、運動部では、陸上部が全国大会、関東大会、水泳部が関東大会に出場し、宮原中の名前を広めてくれました。文化部では、吹奏楽部が県大会で金賞を受賞し、9月7日に山梨県で開催される西関東大会へ、合唱部も県大会で金賞、9月27日に茨城県で開催される関東大会への出場が決定しました。美術部も北部地区展で素晴らしい作品を出品してくれました。

さて、「努力のつぼ(壺)」という言葉がありますが、人は何か新しいことに挑戦する時、神様から「つぼ」を貰うと言われます。努力すると「つぼ」に水が溜まっていきます。人それぞれに大きさは違い、どのぐらいの大きさか、どのぐらい努力の水が溜まっているかはわかりませんが、努力を「つぼ」に入れ続け、水が溢れた時出来るようになるのです。これは人の可能性が努力することにより、結果として現れるプロセスを「努力のつぼ」に例えたメッセージです。可能性は、ある日突然現れるものではありません。私たち大人にとっては当たり前と認識している事かもしれませんが、行動しないと可能性はずっと可能性のままで終わってしまいます。努力してはじめて、結果という形で手ごたえを感じられるものになることを様々な経験を通して知り、成長の糧として子どもたち自身の心に育みたいと思います。



子どもの作文珠玉集No.1作文25選『子どもを変えた親の一言』(明治図書)より(小学1年生)

「お母さん、ど力のつぼのはなし、またして」「ウンいいよ。こんどはなあに」「さかあがり」「ああああ、まだいっぱいになってなかったのね。ずいぶんおおきいねえ。」と、いいながら、お母さんはイスをひいて、わたしのまえにすわりました。そして、もうなん回もしてくれた、ど力のつぼのはなしを、またゆっくりとはじめました。それは、こんなはなしです。人がなにかをはじめようとか、いままでできなかったことをやろうと思ったとき、かみさまからど力のつぼをもらいます。そのつぼは、いろんな大きさがあって、人によって、ときには大きいものや小さいものやいろいろあります。そして、そのつぼは、その人の目には見えないのです。でも、その人がつぼの中にいっしょうけんめい「ど力」を入れていくと、すこしずつたまっていて、いつか「ど力」があふれるとき、つぼの大きさがわかる、というのです。だから、やすまずにつぼの中にど力をいれていけば、いつか、かならずできるときがくるのです。わたしは、このはなしが大好きです。ようちえんのとき、はじめてお母さんからききました。そのときはよこばしごのれんしゅうをしているときでした。それから、ーりん車や、てつぼうのまえまわり、とびばこ、竹うま。なんでもがんばってやっているとき、お母さんにたのんで、このはなしをしてもらいました。くじけそうになったときでも、このはなしをきいていると、心の中の大きなつぼが見えてくるような気がします。そして、わたしの「ど力」がもうすこしで、あふれそうに見えるのです。だから、またがんばる気持ちになれます。(以下略)

みなさんの心の中に、このお話のような壺があるとしたら、その壺は努力であふれていますか。2学期は、生徒のみならず教職員も含めて、努力の壺の中に、地道に一滴ずつ貯めていきたいと考えています。

